

## □ 計算資源配分の考え方



Society 5.0推進利用\*

\* : 政策対応枠 (外枠) より5%程度をSociety 5.0推進利用として活用。

### ■ 一般利用

- 主としてアカデミアによる利用を想定。
- 公募により、「富岳」の機能・性能を有効に活用する、幅広い研究課題を科学的見地から審査した上で、採択。

### ■ 産業利用

- 産業界による利用を想定。
- 公募により、「富岳」の機能・性能を有効に活用する、幅広い課題を科学的、社会経済的見地から審査した上で、採択。
- Society 5.0の実現に資する課題を実施する枠(Society 5.0推進利用)を設ける。(例:産業界のコンソーシアム、産学連携による利用などを想定)。

### ■ 成果創出加速

- 「富岳」成果創出加速プログラムで採択された課題等、特に、科学的・社会的課題の解決に直結する成果の創出が早期に見込める研究課題を実施。

### ■ 調整・高度化・利用拡大

- 「富岳」の運用機関であるR-CCSが中心となって、安定運用のためのシステム調整に必要な取組、幅広いユーザーの利用に資する高度化研究・利用支援、計算科学の先導的研究開発等を実施。

### ■ 政策対応

- 政策的に重要又は緊急と認められる課題(例:感染症対策、気象・防災分野、国が実施する他の研究開発プロジェクトでの利用、計算分野の国際連携に資する利用等)を柔軟に実施。

## 概要

令和5年度の公募では、新たな基軸や分野による社会的課題・科学的課題への挑戦（特に、AI・データ科学との融合・連携による成果の創出、社会実装に向けた産業界との連携、次世代を見据えたアプリケーションに繋がる取組、基礎科学の新たな展開など）や、分野内や分野間の連携による新たな展開の創出といった、「富岳」を用いたこれまでにない新規成果の創出が見込まれる研究課題を採択し、「富岳」の特性を十分に活用し画期的な成果を創出することを目指す。

## 予算と計算資源を配分する課題

### 大規模連携課題

- 必須要件：若手・中堅研究者の参画（人材育成等）、連携による新たな展開（新規成果）の創出
- 加点要件：産業界との連携（Society5.0、社会実装）、幅広いコミュニティの取り込み（エコシステムの形成）、次世代アプリに繋がる取組、新たな研究開発課題責任者による取組等
- 採択課題数：最大3課題程度予定
- 予算額：1課題あたり上限100百万円
- 課題実施期間：3年間

### 標準課題

- 必須要件：新たな基軸による新規成果の創出、若手・中堅研究開発課題責任者もしくは新たな研究開発課題責任者による取組
- 加点要件：社会実装や次世代アプリに繋がる取組、若手・中堅研究者による取組等
- 採択課題数：最大7課題程度予定
- 予算額：1課題あたり上限30百万円
- 課題実施期間：3年間

## 計算資源のみ配分する課題

### 標準課題（計算資源のみ）

- 必須要件：新規成果の創出、開発した国プロアプリ等による発展的な成果創出
- 加点要件：他の競争的研究費と連動し、計算資源を付加することで政策効果を高められる取組等
- 採択課題数：最大3課題程度予定
- 課題実施期間：3年間

# スーパーコンピュータ「富岳」成果創出加速プログラム 推進体制

